

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年3月

＜射水市＞

目次

I	調査の概要.....	1
	(1) 調査目的.....	1
	(2) 実施概要.....	1
	(3) 報告書の見方.....	1
II	調査結果.....	2
1	在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて.....	2
	(1) 主な介護者.....	2
	(2) 施設等検討の状況.....	3
	(3) 介護者が不安に感じる介護.....	4
	(4) サービス利用の組み合わせ.....	6
	(5) 在宅生活の継続に必要な介護保険外サービス.....	8
	(2) 仕事と介護の両立、介護離職の防止について.....	11
	(1) 就労状況別・本人の状況.....	11
	(2) 就労状況別・介護の状況.....	11
	(3) 就労継続の見込み.....	12
	(4) 就労継続の見込み別・介護者が不安に感じる介護.....	13
	(5) 効果的な勤め先からの支援.....	14

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、令和6年度から令和8年度を計画期間とする「射水市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定に向け、在宅要支援・要介護認定者及び主な介護者に在宅介護の実態や介護と仕事の両立等の状況を伺い、計画策定の基礎資料として活用するために実施しました。

(2) 実施概要

調査対象	在宅の要支援・要介護認定者
調査期間	令和4年12月1日～令和5年3月31日
調査方法	認定調査員による聞き取り調査
配付・回収	回収:623票

(3) 報告書の見方

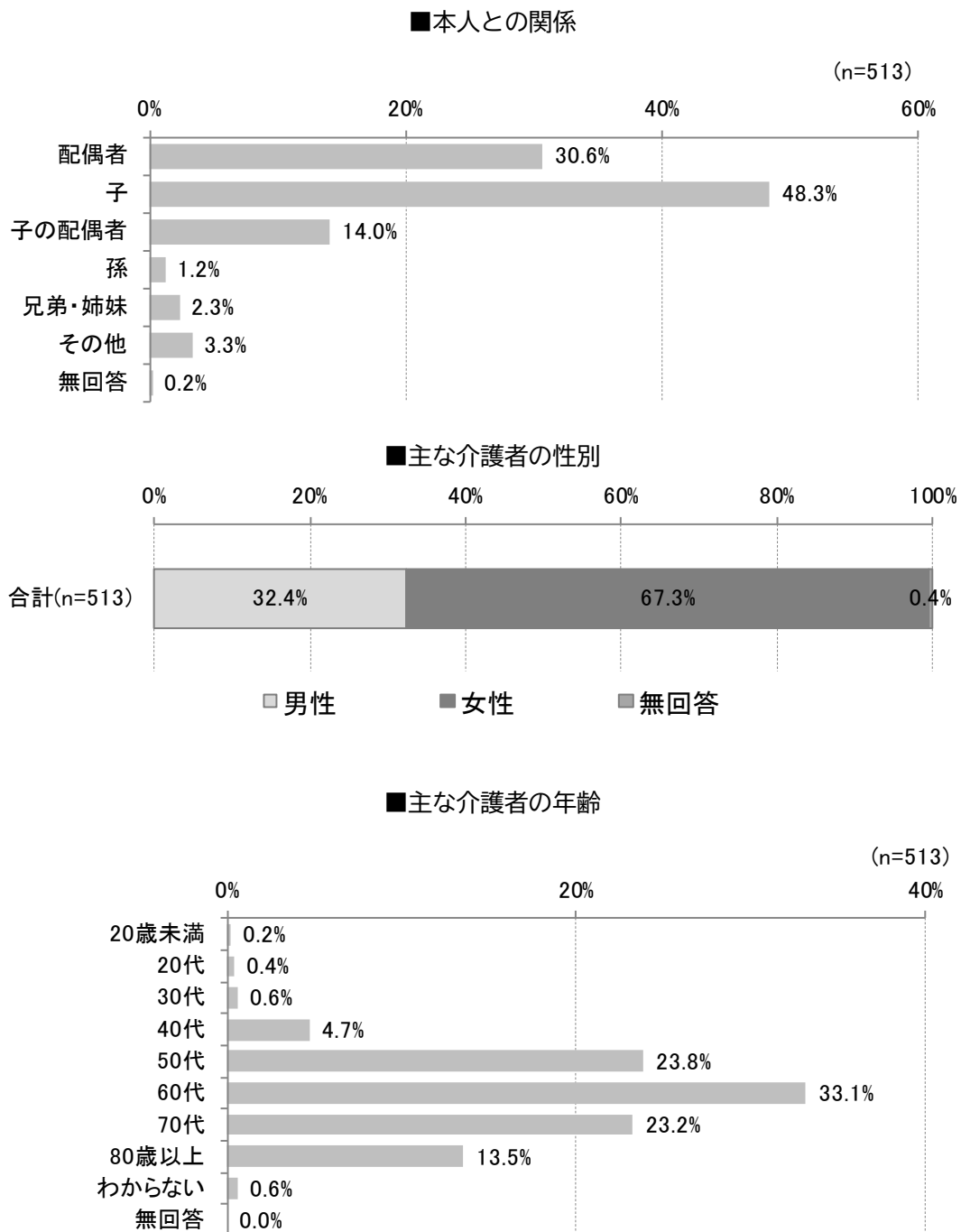
- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、構成比算出の母数（回答者数）を示しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
- 設問の中には前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合があります。
- 図表中の数値は四捨五入により表示しているため、合計や増減の数値が表示上の数値の計算結果と合わない場合があります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。
- 母数が100未満の場合の百分率は、統計的誤差が大きい可能性が高いので数値の取扱いには特に注意が必要となります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中では省略した表現を用いる場合があります。

Ⅱ 調査結果

1 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて

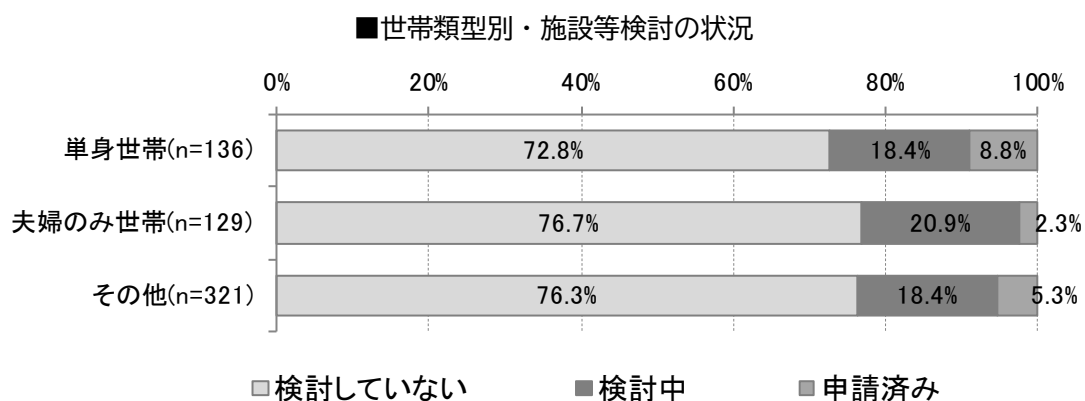
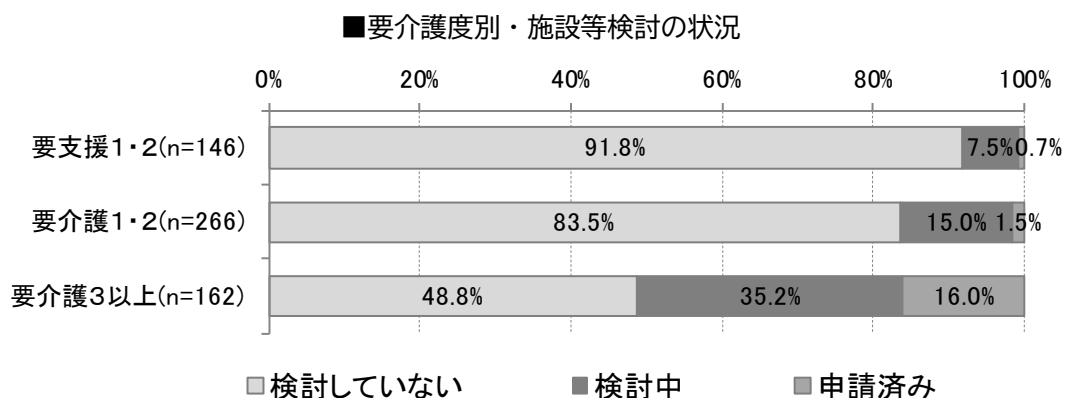
(1) 主な介護者

- 主な介護者は、「子」が48.3%で最も高く、次いで「配偶者」(30.6%)、「子の配偶者」(14.0%)と続いています。
- 性別は、「男性」が32.4%、「女性」が67.3%で、女性が約7割を占めています。
- 年齢は、「60歳代」が33.1%で最も高く、「70歳代」(23.2%)と「80歳以上」(13.5%)も合わせると約7割が60歳以上となっています。



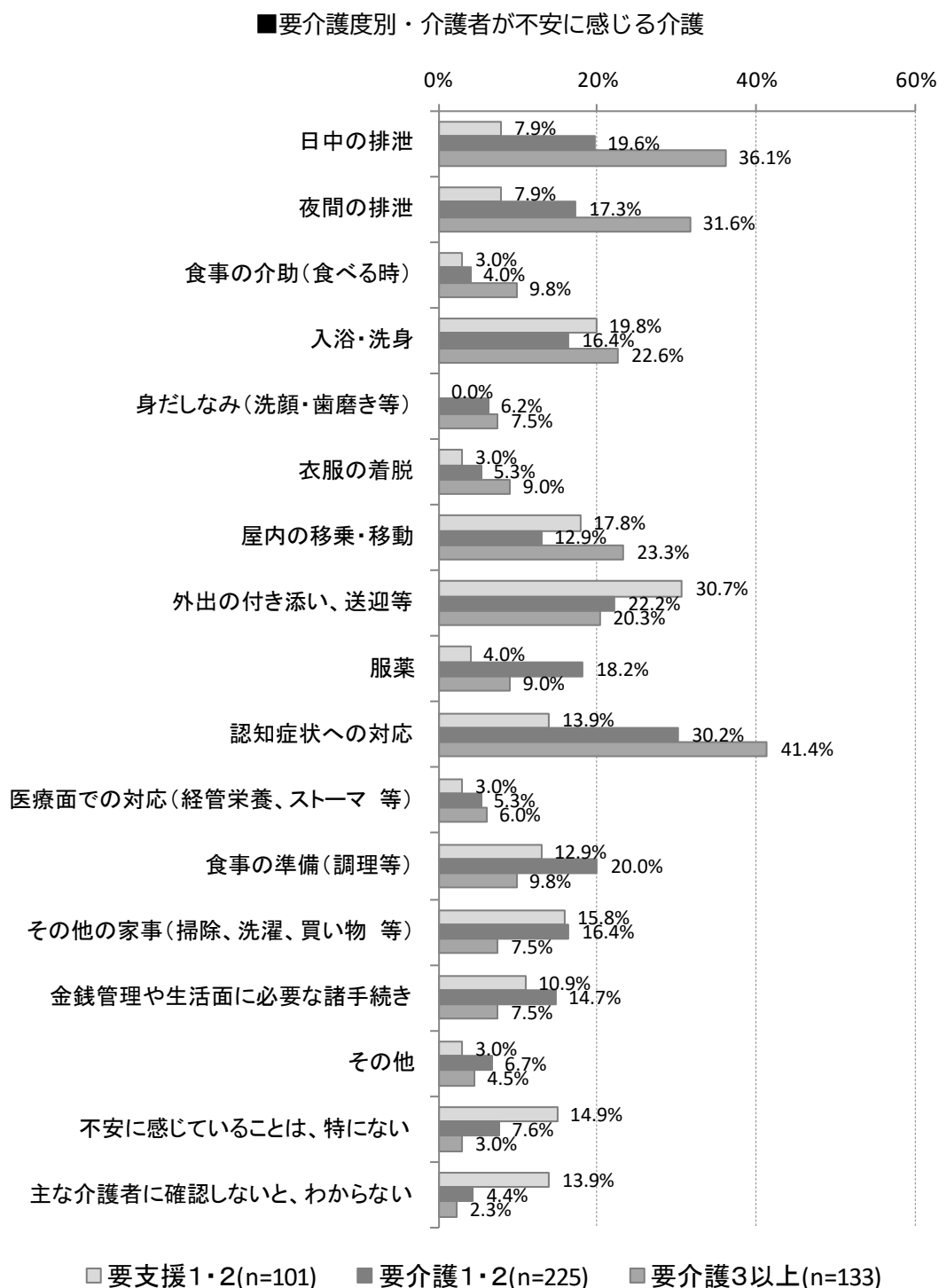
(2) 施設等検討の状況

- 施設の検討状況を要介護度別にみると、要介護度が上がるにつれて、「検討中」「申請済み」の割合が高くなっており、要介護3以上では5割以上となっています。
- 世帯構成による施設の検討状況に大きな差はみられません。



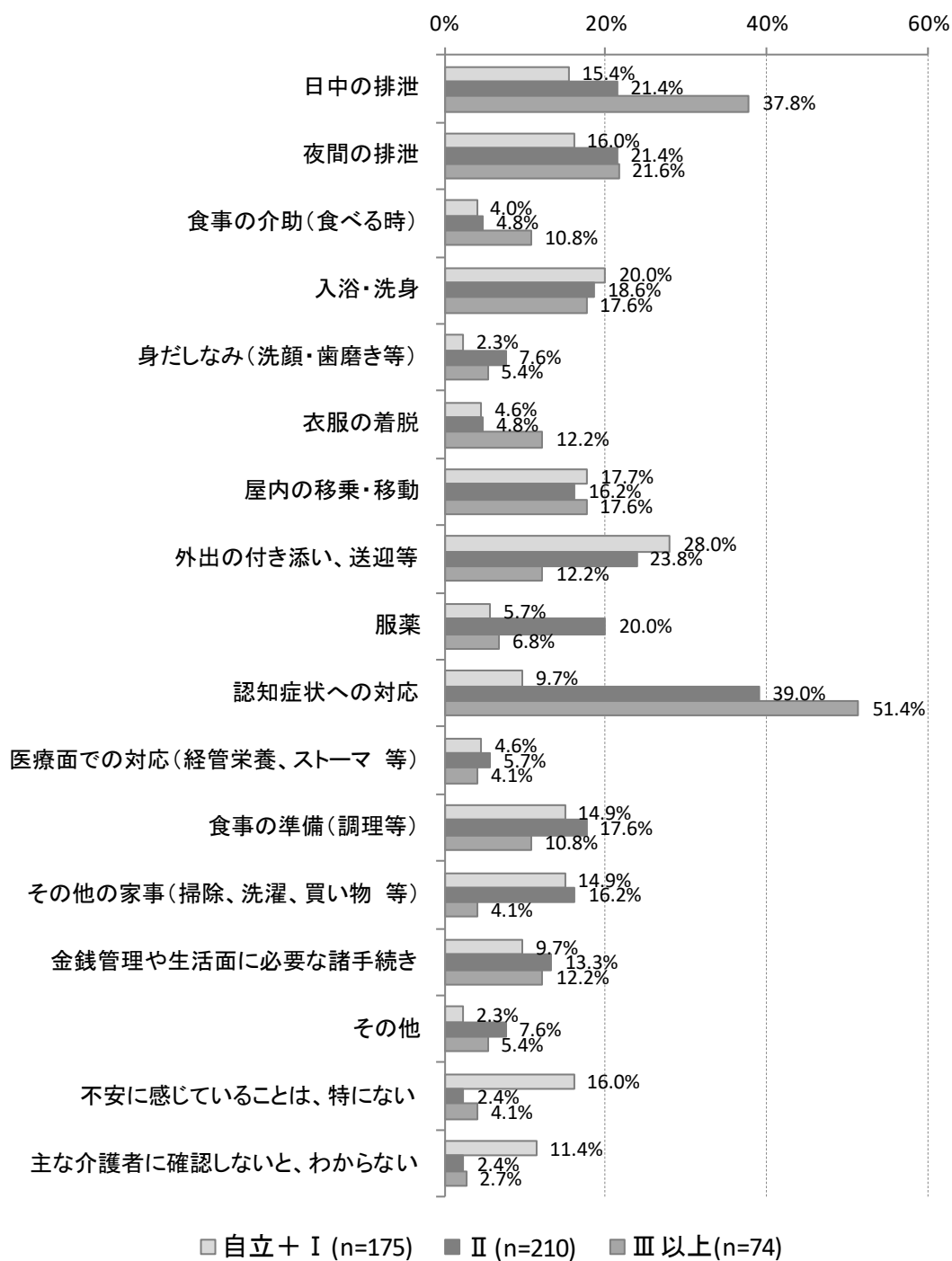
(3) 介護者が不安に感じる介護

○ 介護者が不安に感じる介護を要介護度別にみると、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」等の割合が高く、要介護1・2では「認知症状への対応」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備」等の割合が高く、要介護3以上では、「認知症状への対応」「夜間の排泄」「日中の排泄」等の割合が高くなっています。



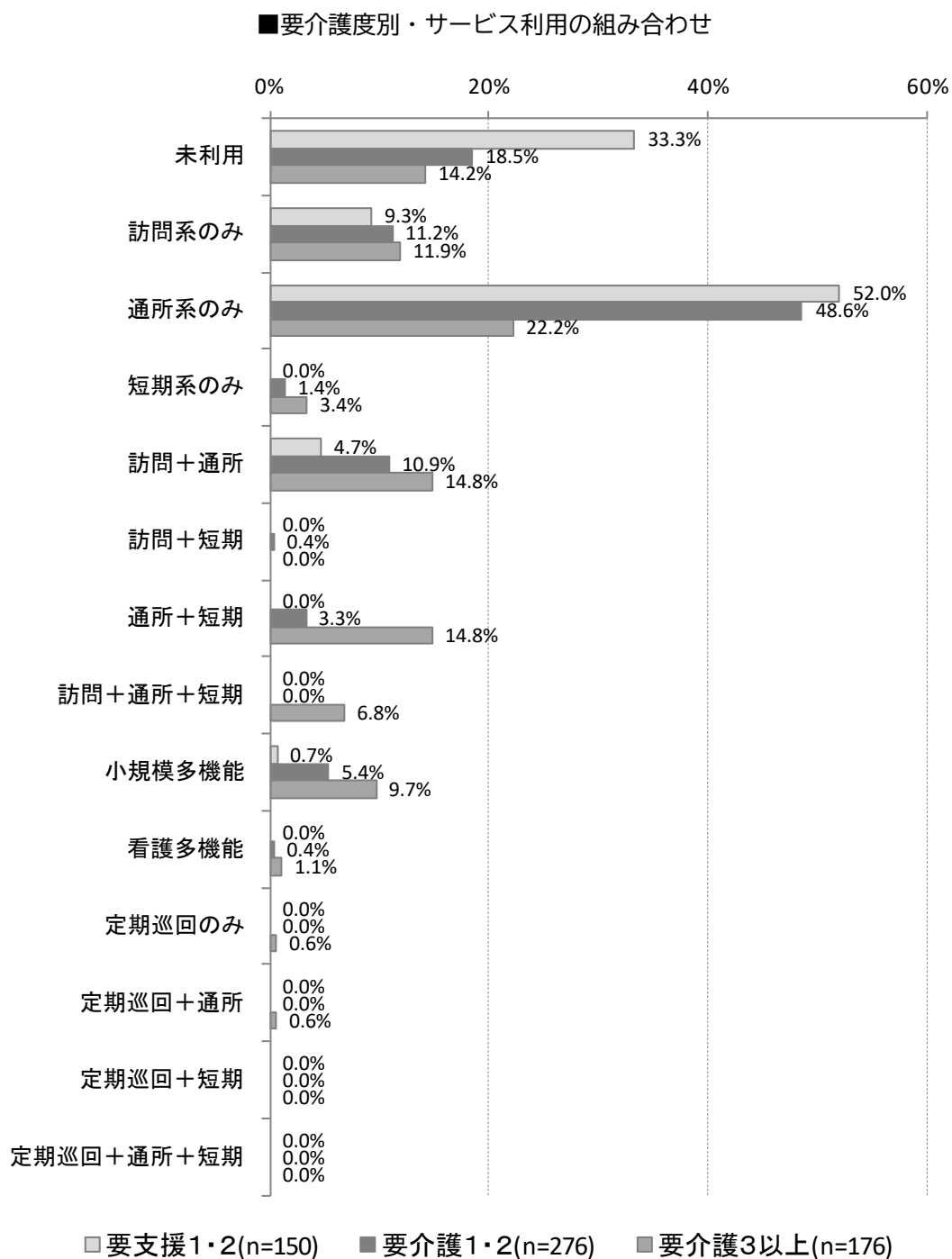
○ 介護者が不安に感じる介護を認知症自立度別にみると、自立+Ⅰでは「外出の付き添い、送迎等」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」等の割合が高く、Ⅱでは「認知症状への対応」「外出の付き添い、送迎等」「日中の排泄」「夜間の排泄」等の割合が高く、Ⅲ以上では、「認知症状への対応」「日中の排泄」「夜間の排泄」等の割合が高くなっています。

■ 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

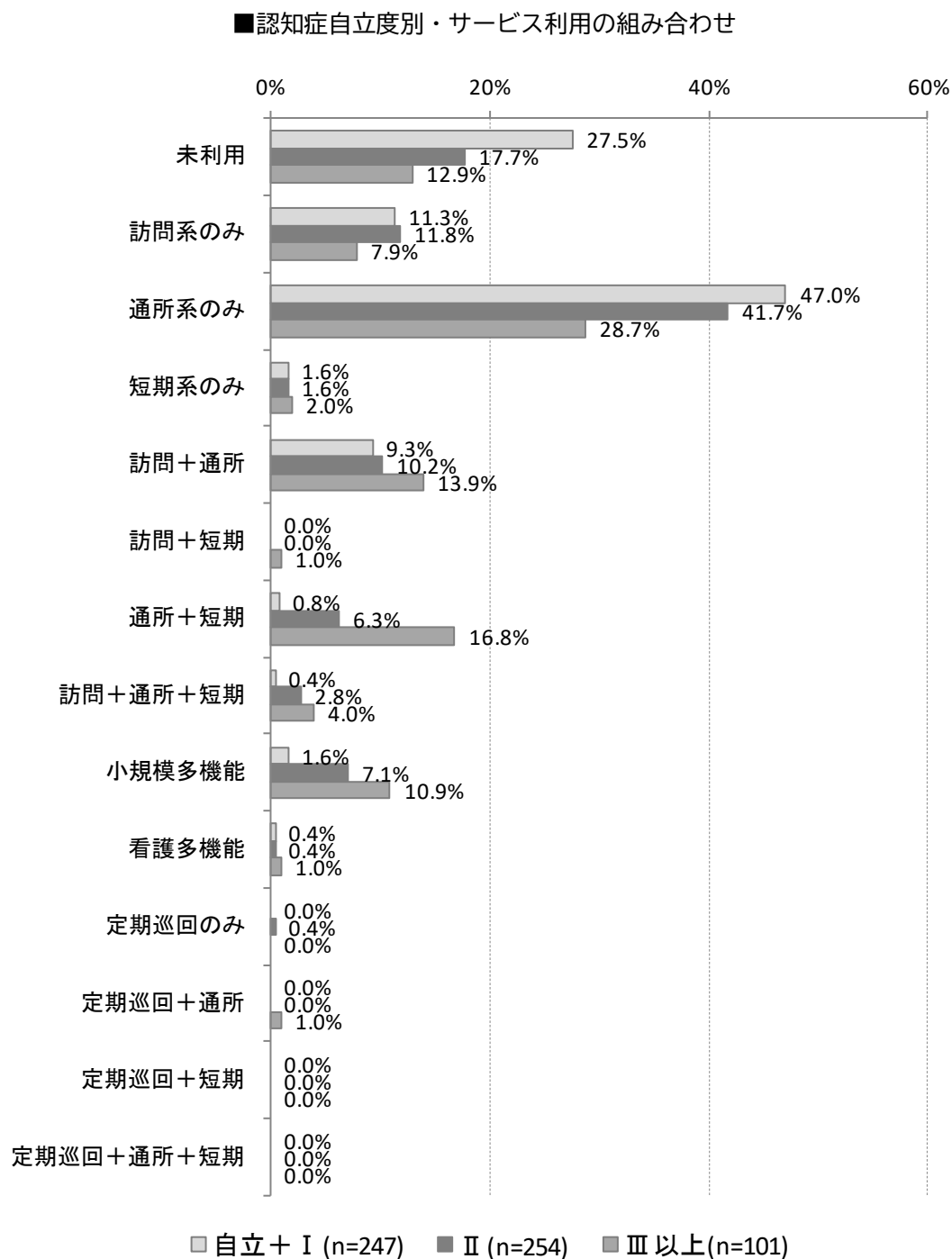


(4) サービス利用の組み合わせ

○ サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、要支援1・2及び要介護1・2では「通所系のみ」の利用割合が高く、要介護度が高くなるにつれて「訪問系」や「短期入所」を組み合わせ利用している人の割合が高くなっているほか、「小規模多機能」の割合も高くなっています。



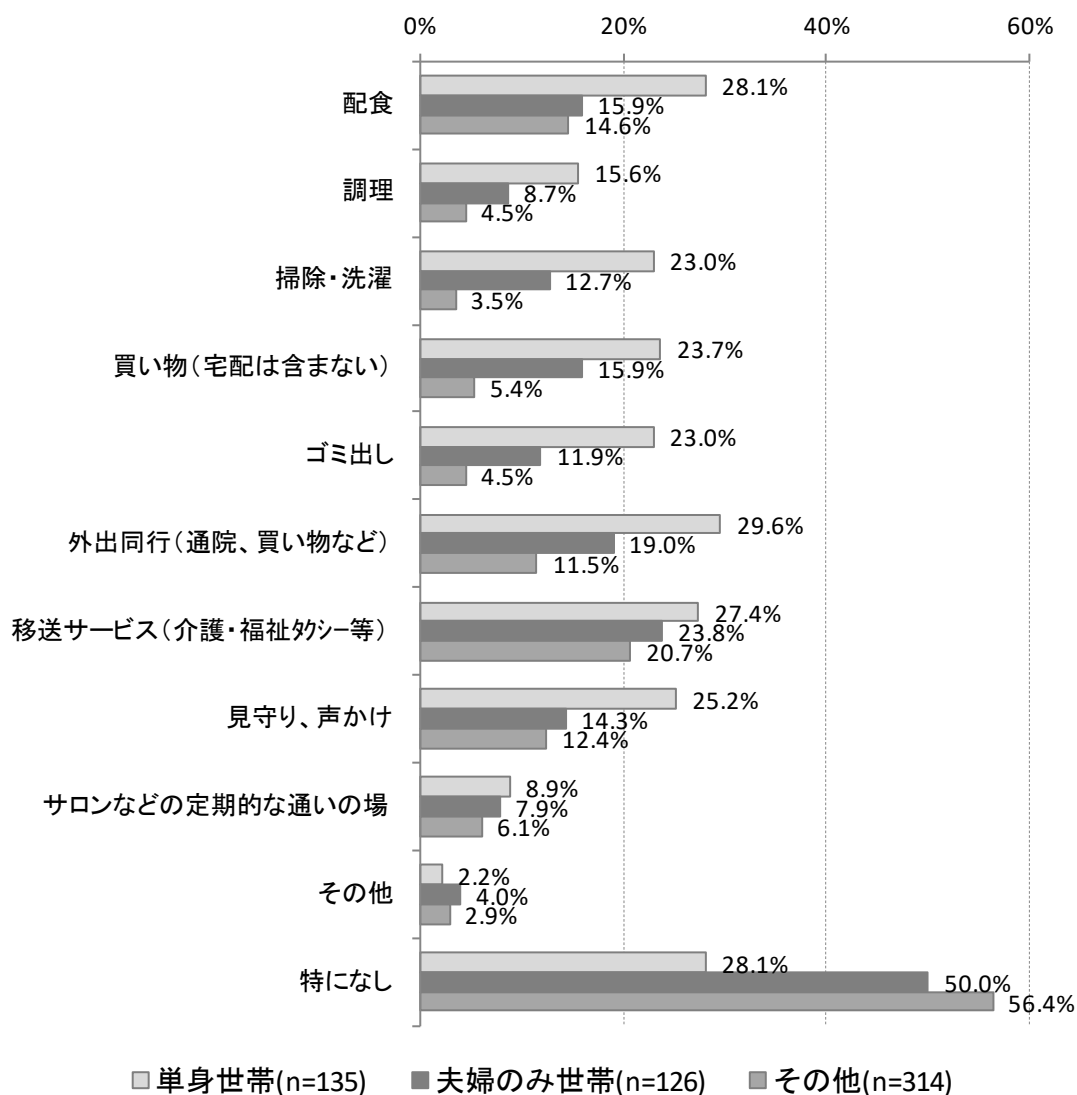
- サービス利用の組み合わせを認知症自立度別にみると、いずれの自立度においても「通所系のみ」の利用割合が高く、特に自立+ I、IIで高くなっています。III以上では、自立+ IやIIの人と比べて、「通所+短期入所」や「小規模多機能」の利用割合が高くなっています。



(5) 在宅生活の継続に必要な介護保険外サービス

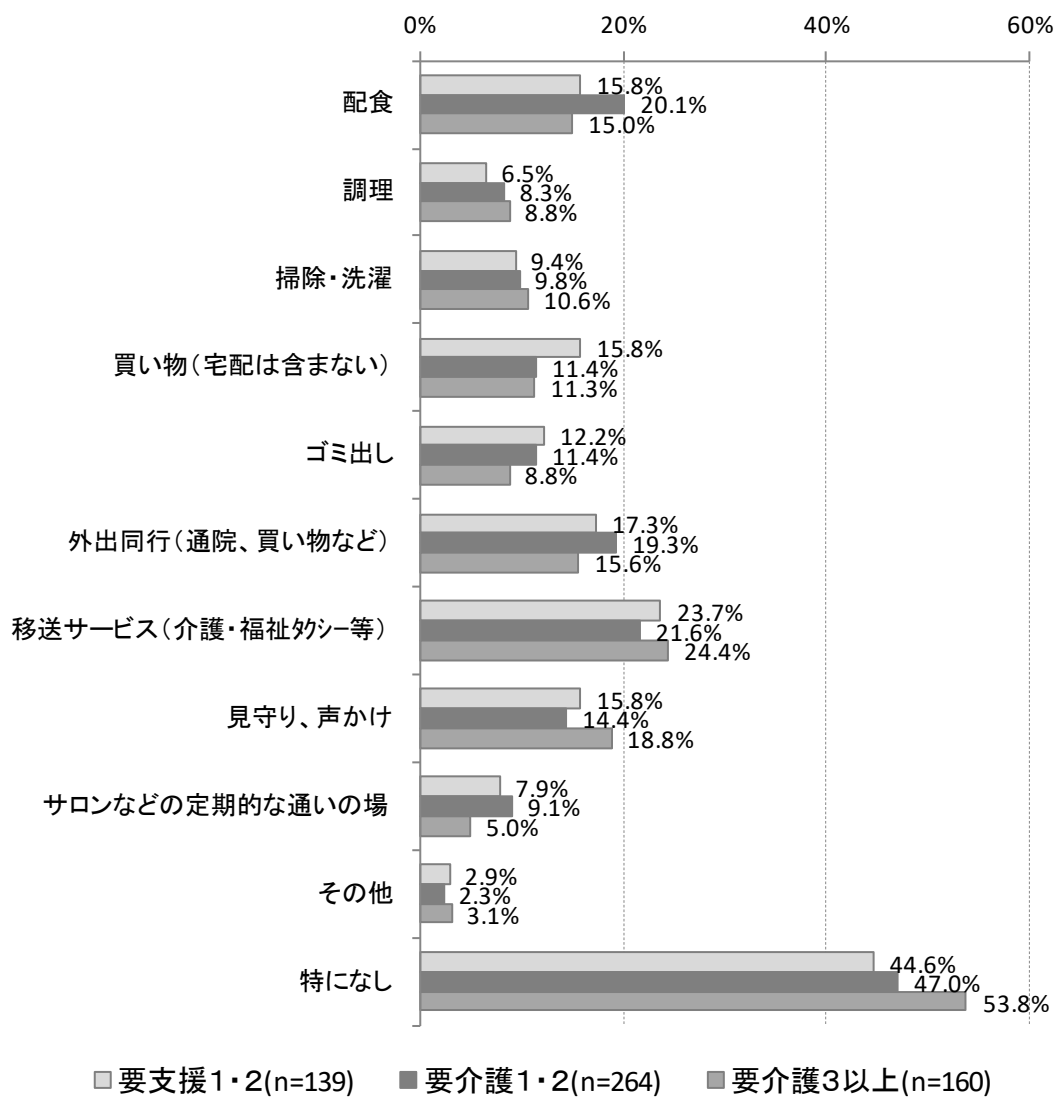
- 在宅生活に必要な介護保険外サービスを世帯類型別にみると、単身世帯では他の世帯に比べて多くのサービスで割合が高くなっています。夫婦のみ世帯、その他世帯では、「移送サービス」や「外出同行」の割合が高くなっています。

■世帯類型別・在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス



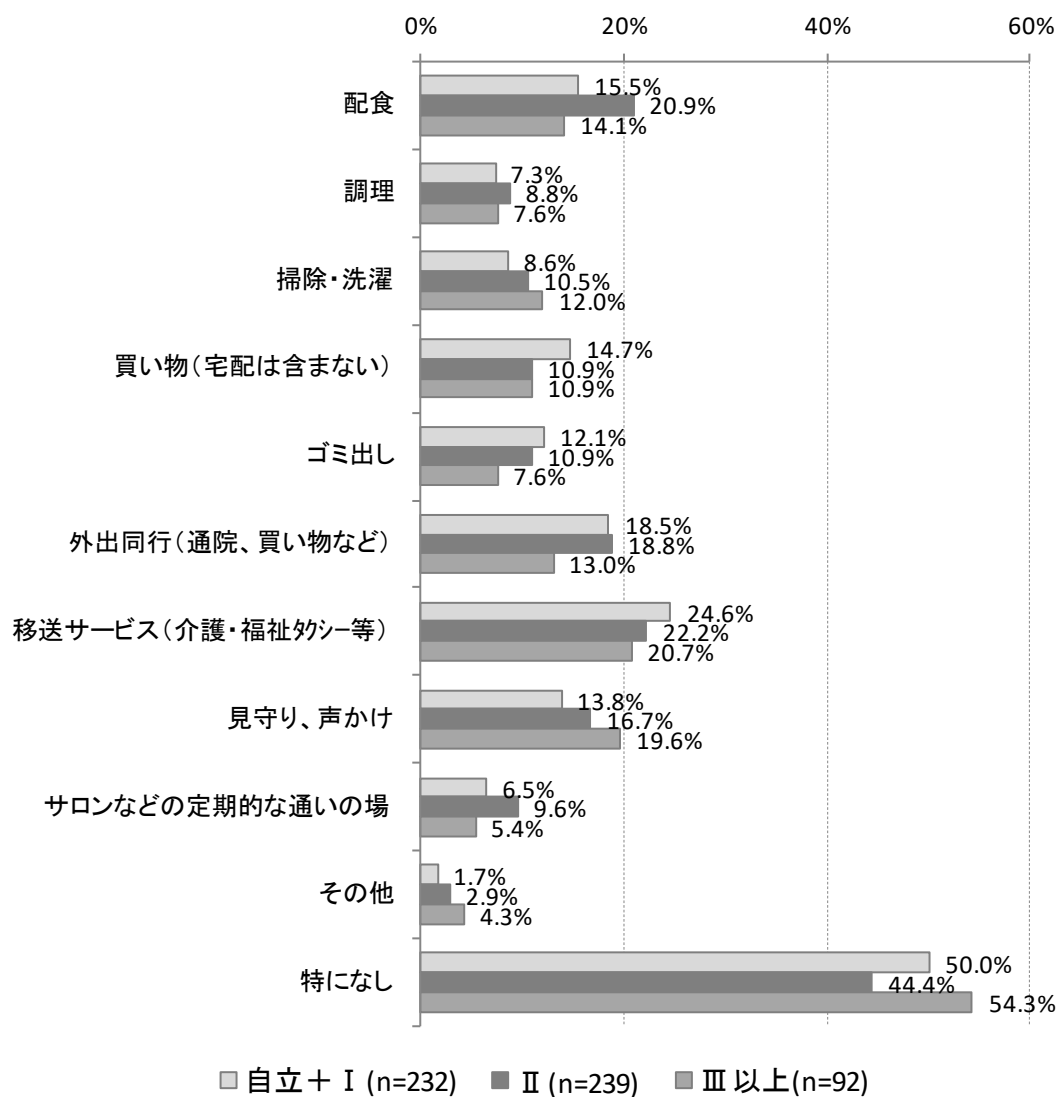
- 介護保険外サービスの必要性を要介護度別にみると、要介護度による大きな差はみられず、いずれの要介護度でも「移送サービス」の割合が最も高いほか、「外出同行」や「配食」の割合も高くなっています。

■ 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



- 介護保険外サービスの必要性を認知症自立度別にみると、いずれの自立度でも「移送サービス」の割合が最も高くなっています。Ⅱでは「配食」が他の自立度に比べて高いほか、自立度が低くなるにつれて「見守り・声掛け」の割合が高くなっています。

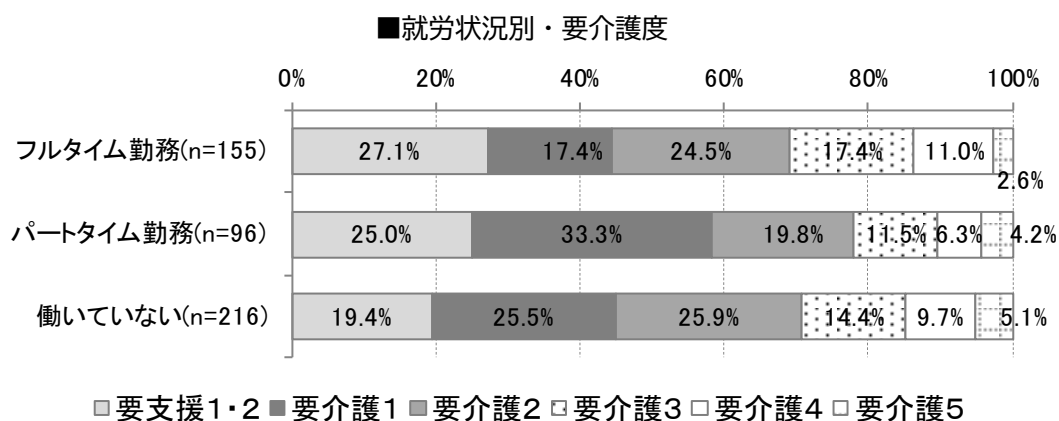
■ 認知症自立度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 仕事と介護の両立、介護離職の防止について

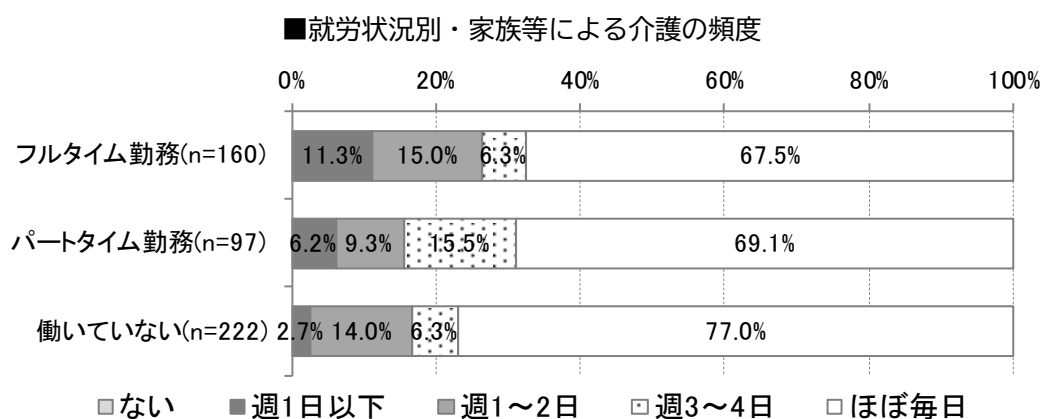
(1) 就労状況別・本人の状況

- 主な介護者の就労状況別に要介護度の構成比をみると、パートタイム勤務では、他と比べて「要介護1」の割合が高く、「要介護2」の割合が低くなっています。



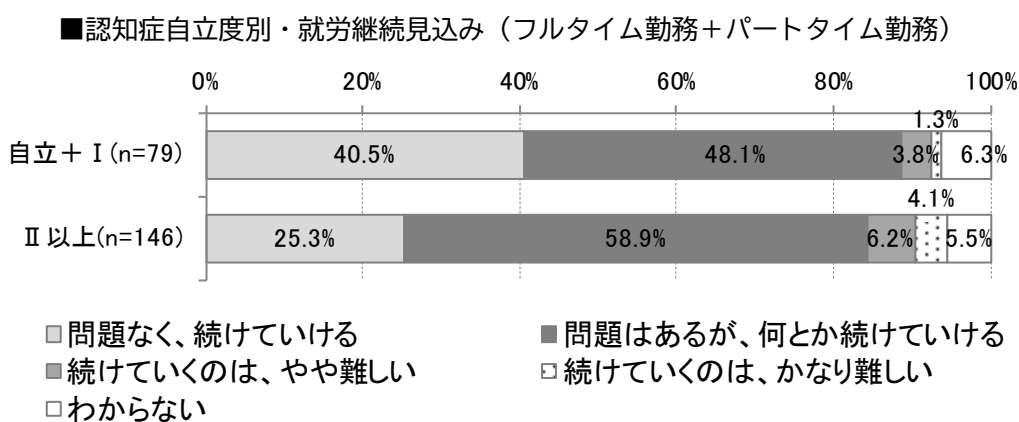
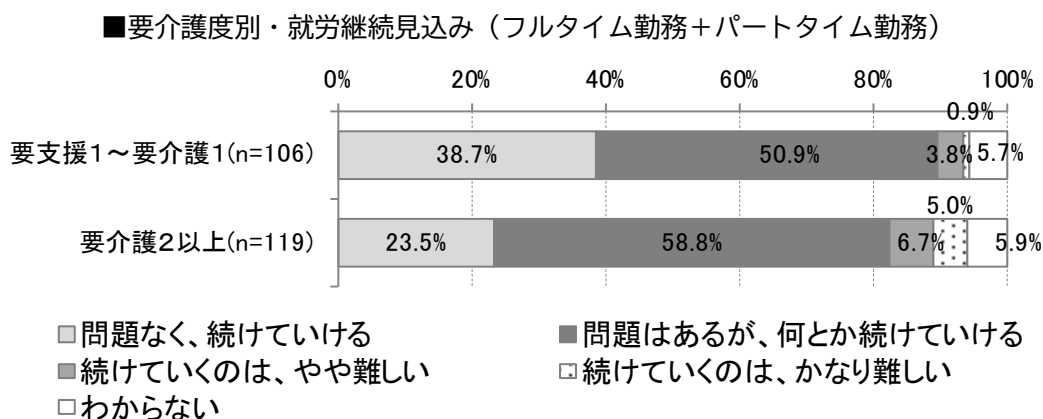
(2) 就労状況別・介護の状況

- 主な介護者の就労状況別に家族による介護の頻度をみると、いずれも「ほぼ毎日」の割合が最も高く、フルタイム勤務、パートタイム勤務で約7割、働いていない人では約8割が「ほぼ毎日」と回答しています。



(3) 就労継続の見込み

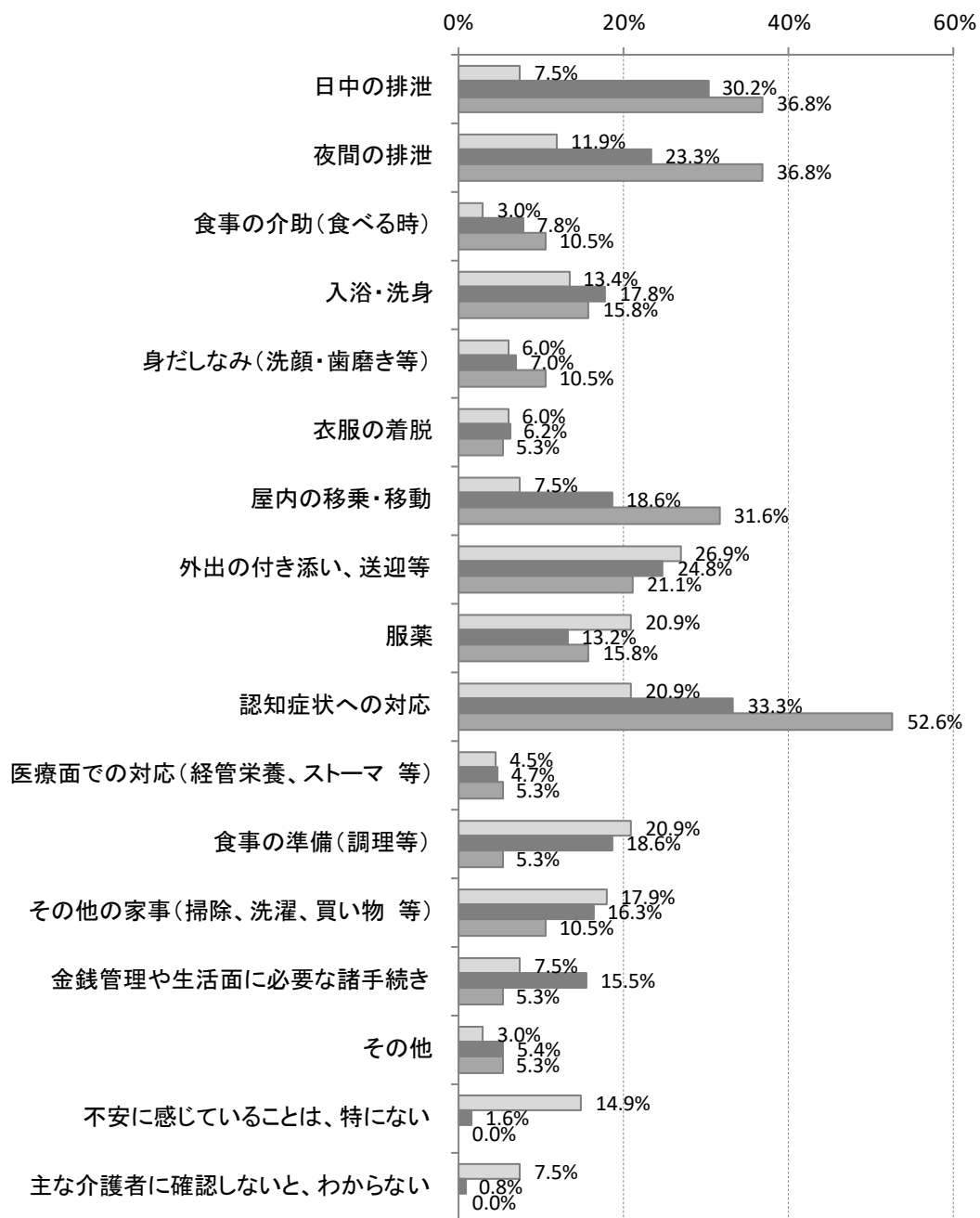
- フルタイム勤務もしくはパートタイム勤務をしている主な介護者の就労継続の見込みを要介護度別にみると、要介護2以上では要支援1～要介護1に比べて「問題なく、続けていける」の割合が低く、「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高くなっています。
- 認知症自立度別にみると、Ⅱ以上では自立+Ⅰに比べて「問題なく、続けていける」の割合が低く、「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高くなっています。



(4) 就労継続の見込み別・介護者が不安に感じる介護

○ 就労継続の見込み別に主な介護者が不安に感じる介護をみると、就労継続が難しいと回答している人では、続けていける人に比べて「認知症状への対応」や「日中の排泄」、
「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」の割合が高くなっています。

■就労継続見込み別_介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

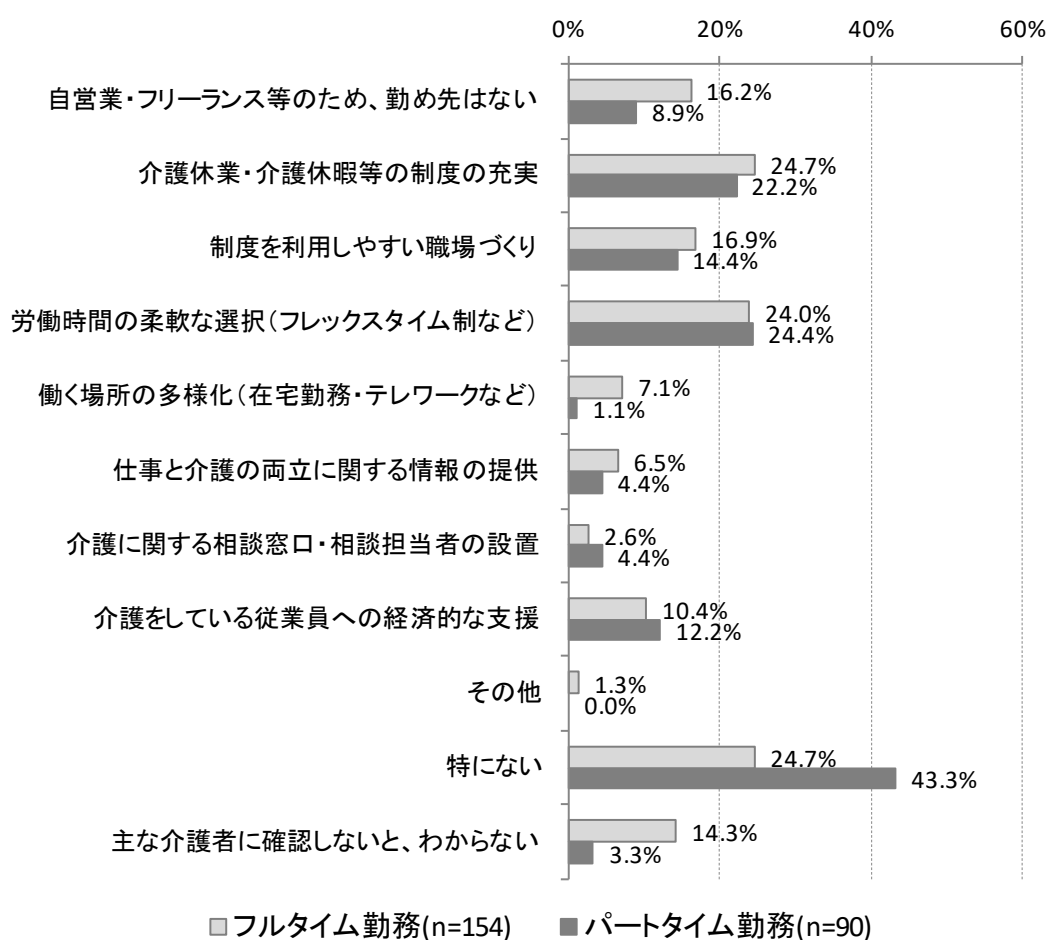


- 問題なく、続けていける(n=67)
- 問題はあるが、何とか続けていける(n=129)
- 続けていくのは「やや+かなり難しい」(n=19)

(5) 効果的な勤め先からの支援

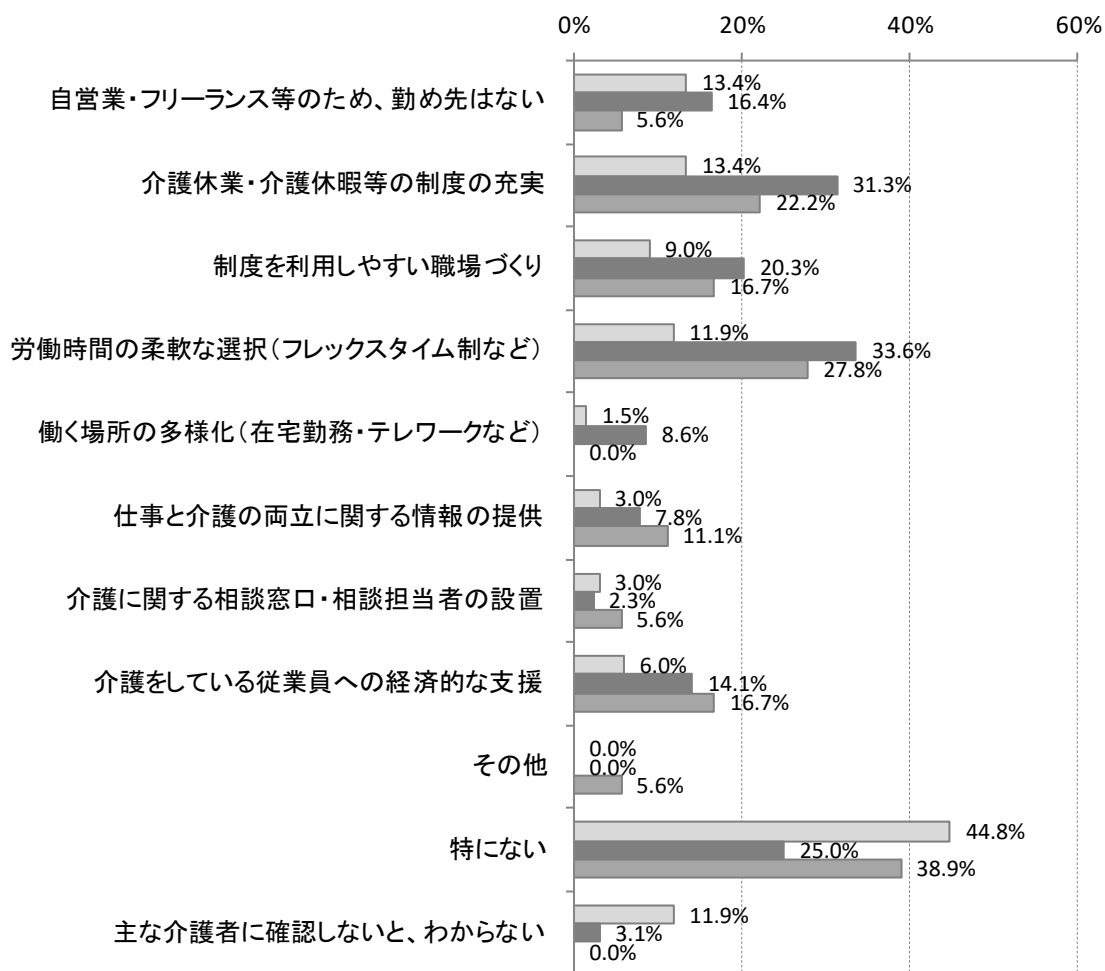
- 主な介護者の就労状況別に効果的な勤め先からの支援をみると、フルタイム勤務、パートタイム勤務ともに「介護休業・介護休暇等の制度の充実」や「労働時間の柔軟な選択」の割合が高くなっています。
- パートタイム勤務ではフルタイム勤務に比べて「特にない」の割合が高くなっています。

■就労状況別・効果的な勤め先からの支援



○ 就労継続の見込み別に効果的な勤め先からの支援をみると、続けていくのは難しい人、問題はあるが、何とか続けていける人ともに「労働時間の柔軟な選択」の割合が最も高くなっているほか、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が高くなっています。

■ 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援



- 問題なく、続けていける(n=67)
- 問題はあるが、何とか続けていける(n=128)
- 続けていくのは「やや+かなり難しい」(n=18)